

能美市美術作家協会とのタウンミーティング

2019.8.7（水）18：30～19：45

辰口福祉会館 交流ホールA

○参加者 市民 約25名

○タウンミーティング議事録

【市長あいさつ】

大変暑い中、お集まりいただきありがとうございます。

今日は美術作家協会さんとのタウンミーティングです。私も美術鑑賞は好きな方ですから、県立美術館や金沢21世紀美術館には必ず行くようにしているし、皆様方の作品が展示してある場所には必ず足を運ぶようにしている。元来、茶碗屋ですので、陶芸のことは少しわかると思っている。書、日本画洋画、彫刻、写真などいずれも奥深いと思う。

今日は予め質問の内容を見せて頂いた。それぞれの分野の中でさらに振興させたいと気持ちが込められたものがたくさんあり、感心している。そして、新博物館のご質問もいただいた。新博物館は、2020年の秋にオープンする予定で工事を進めている。実は、その新博物館の2020年秋オープンの記念すべき第1回のギャラリー展示に皆様方の作品を展示させていただきたいと思っている。改めてご相談をして、皆様方のご協力を得ながら、この新博物館のオープニングセレモニーを盛大に迎えたいと考えている。忌憚のない所で皆様方にいろんな話をさせて頂くので、どんどんいろいろなご意見を出していただきたい。

【能美市美術作家協会理事長 あいさつ】

市長には、お忙しい中、本当にありがとうございます。タウンミーティングを行っていると聞いて、ぜひお話を市長にぶつけてみたいということで企画をした。1ヶ月くらい前に会員の皆さんにアンケートをして、いろんな意見が出された。これを大まかに10項目くらいに要約し、それを事務局の方でとりまとめて、前もって市長戦略室へ提出した。この他の質問もあると思うが、よろしく願います。

●意見交換

1、美術作品展示について

①寺井地区公民館について

(市民)

- 私は辰口地区に住んでいるが、市の中心にある寺井地区公民館はとても通いやすく、日頃より美術作家協会の役員会や理事会やいろんな展覧会、年末には歳末助け合い展などで、よく利用させていただいている。最近、市外からの来場も増えていると伺った。それに対し、建物の老朽化が目立ってきているのではないかと考えている。建物に限らず、展示ケースや展示パネル、ロビーをリニューアルするような予定はあるか。

(市長)

- 寺井地区公民館ができたのは昭和 51 年で、その後、ロビーは平成 14 年に、今から約 16 年くらい前に天井と照明を全面的に更新している。その後も、耐震化工事、大ホール天井、会議室の空調も改修した。そんな中、見たところあまりきれいでないという指摘だと思っている。順次直していきたいという思いもあるし、陳列ケースなどもきちんと直していきたいと思っている。具体的にここをと言っていたらと思う。

②根上学習センターについて

(市民)

- 日頃から根上学習センターの展示室を使わせていただいているが、天井が高いのは、私たち書道にとっては大変いいが、展示設営の時に脚立で相当の高さまで登ったりするため、足がすくむという思いです。前に県立美術館での展示の時に、バーチレータという備品を美術館から借りた。上に乗っていても恐ろしいということがなく作業もしやすいというも思っている。バーチレータは、鶴来のクレーンや小松のルフレでも使ったことがある。ぜひ、事故の起こらないものを設備してもらえないかと思う。

(市長)

- ひとつ聞きたいのは、ご苦労されているのは、吊り具を下げるときなのか、作品を下げるときなのか。

(市民)

- 作品をさげる前に、吊り金具を天井のところにかけるときだ。

(市長)

- それでは、一度こちらで、こんな用具があります、こんな装置がありますということ準備するので、それを見て頂いてどれが一番いいのかまず教えて欲しい。学習センターの床が柔らかいので、装置の中でも硬い足のものだと床に傷がつくということが分かっている。その点で制約がある。こちらでこんなものがあるというのを写真か

図面で準備するので、作業の中で一番いいものを教えてください。

③公共施設内の作品展示について

(市民)

- 能美市には 100 名を超える作家がいて、たくさんの作品を持っている。これらを活用して、公共施設を美術館化したらどうかと提案する。現状は、各公共施設には確かに作品が飾ってあるが、あまり企画性が無い。やはり、飾る以上は企画性を持って、きちんとした中でやるというのが大事だと思う。特に悪いのは飾りっぱなしになっていること。見る人は見飽きてしまって、何の感動もない。せっかくの公共施設に企画性をもって作品を展示するという方向性に持って行って欲しい。たくさんの作品をもっと収集して、そういうことを進めて頂きたい。

(市長)

- おっしゃる通りです。私も市長に就任した時に同じことを思った。問題は、寄贈されている方がたくさんいらっしゃる。その作品をどうするのかで、寄贈された方の気持ちをどう汲み取りながら、今のご提案を実現していくかということ。市内の施設の中にどんなものがどこに飾られているのかということ进行调查し始めている。調査ができた時に、どうするかを然るべき方に相談をして、決めたいという思いがある。作品を傷ませるわけにいかない。収納する場所が無いという課題もある。いろいろとご相談にのっていただきたい。

(市民)

- 以前、わだやま荘や市立博物館にあった作品が、建物を壊した後どこに管理されているのか、管理体制を充実させ台帳管理されているかどうか気になる。作品を寄贈された方に聞かれたことがある。管理もぜひお願いしたい。

(市長)

- その辺も含めて整理します。

④能美市美術館について

(市民)

- 現代美術展が小松市や加賀市や七尾市で巡回展をしている。能美市もこれだけ作家さんがいるので、回ってきて欲しいと思っている。学習センターは巡回展には無理なので、一案として、新たな市役所を真ん中に作っていただいて、今の市役所を内装を全部きれいに美術館にしてはどうか。今の市役所は、能登や金沢や加賀小松からも加賀産業開発道路を走ればすぐわかりますし、地理的にいいと思う。能美市はやはり九谷焼を前

面に出したらよい。東京で九谷焼というと日本の代表のように捉えてもらえる。工芸を主にして、壁面は絵画も書も写真も飾れる。そういう感じの美術館をつくって欲しいと思う。もっと大きく夢を見ると、動物園の前の田んぼに、富山の水墨美術館のような広い芝生と広い平屋の美術館があったら、世界中から集まってくるのではないかと思う。

(市長)

- まず、新しい庁舎を建てるとしたら、8年くらい前の統合庁舎検討委員会で話し合った当時の額で約60億円だった。今80億円はかかると思う。素晴らしい美術館をいうことになる、30億円から40億円くらいかかるだろう。市では、老朽化している施設を新しくしなければならないということで計画をつくっている。まず、やらなければならないのは学校で、市内に小学校が8つ、中学校が3つあるが、これを新しくしなければならない。市内の保育園は15あるが、7つ新築、1つは新しいので、あと7つ新しくしなければならない。直すもの建てなくてはならないものが目白押しで、庁舎や美術館ほどの順番でできるのかというところである。たとえば道路を直さなくてはならない、病院も古い、それから上水道管も古くなっている。そんな中でどの順番でどのように改修していくかということで、今申し上げたようなものがどうしても優先順位が高い。美術館、庁舎はもう少し時間を頂きたい。
- 現代美術展巡回展をこの能美市でやるということに関しては、前向きに考えている。ただ、少し調べると、基礎的に飾らなくてはならない作品が数点あるそうで、それにプラスして、私は能美市にゆかりのある方の作品を飾りたいという思いがある。どれくらいのスペースが必要かということを中心に洗い出して、例えば九谷焼資料館と美術館を使ってできないか、あるいは、タントの円形ホールを使ってできないかと、今の市内にある施設を使い分けながら、前向きに考えていきたいという思いである。

⑤現代美術展について

(市民)

- 現代美術展をなぜ取り上げているかということ、能美市美術作家協会というのは誰でも入れるのではなく、基本的には現代美術展に入選した、あるいはそれに類する中央展覧会において入選したことがあるという方達を1つの基準として、メンバーになっていただいている。そういうこともあるので、巡回展ができたらいいいと思っている。ちなみに私たちのメンバーから過去数年の間の展覧会における大賞受賞者、あるいは準大賞受賞者、一般の部の優秀な受賞者が毎年のように出ている。これは他の市町にまったく遜色のない成績である。九谷焼資料館、美術館を併用してという場合、おおよそ何点位の作品が展示できるということはお答えすることができると思うので、検討をお願いしたい。

2、学校での指導について

(市民)

- 能美市内の各中学校で、年明けの新学期に書初め会をしていると思うが、中学校によって実施している学年と時間数が違うと聞いているが、同じ能美市内の中学校でなぜ違うのか。やはり、日本の伝統文化を大事にしていくうえで、全学年で書初め会をしてもらいたい。

(市長)

- まず、中学校で書道の時間というのは、今、ないそうで、書写という時間に、たとえば楷書を学んだり行書を学んだりすることになっている。必ず筆を使って授業をすることにはなっていないく何を使ってもいいことになっている。書初め会は寺井中学校と根上中学校が1年生でやっていて、辰口中学校が1、2年生でやっている。なぜ、辰口中学校が2年生でもやっているかということ、授業の単位の中で、書写の時間の中で辰口中学校がやっているということ。私ももっと筆に親しむことがあってもいいのかと思うが、実際には、指導要領の中で今のものを変えるのは難しい。書道協会が主催されている書初め大会にもっと中学生に参加してもらえるように、協力していくということがお答えできる範囲である。

3、歳末助け合い入札展について

(市民)

- 入札展はマンネリ化して、来場者数が毎年少しずつ減ってきているような気がします。会場の変更や巡回展等、入場者を増やす方法がよいのではないかと思います。われわれ協会にもいろいろ責任はございますが、なにか方法はないか。

(市長)

- 毎年、多額のご寄付を頂いていることに御礼を申し上げたい。マンネリ化と言われながら、毎年毎年必ず大きな額を頂いている。会場の巡回については、陳列棚は、寺井地区公民館が一番充実している。他の施設では陳列棚が無いということがひとつ。それから地理的に一番集まりやすいのはやはり寺井地区公民館だろうと思う。会場を変更することや巡回というのは難しいのではないかという気がしている。賑わいを増やす方法で、寺井地区公民館で歳末助け合い入札展をやっている期間中に、大きなイベント等がそこで開催をされていれば、多くの方が興味を示してもらえるのではないかということがある。そんなことを一緒にやれないかと考えている。大きなイベントができないようであれば、逆に大きなイベントが寺井地区公民館で実施される日を狙って助け合い入札展をやってもらおうということもひとつだと思う。

- 我々も、作品をたくさん出して頂けるように、皆様方と協力して、出展者にお願いするようなことも相談できればと思う。

4、地域の景観について

(市民)

- 写真というのは、建物や風景を撮って写真に表して現代美術展などに出品をするという部門です。高坂町にある高坂堤の公園を見に行ったら写真にできないような状態になっていた。池の水が汚くなった。池の真ん中に赤い橋があって、橋の欄干が落ちていてロープが張られて入ってはいけないということになっている。散歩する方もいると思うが、今の状況は恥ずかしくて見せられないような状態になっている。

(市長)

- まず水質の話ですが、昔は農業用の灌漑用水として使われていたので水が循環していたためきれいだったのですが、今は農業用水として使われていないので、門を閉めていて循環しておらず、汚れているという状況である。これを農業用水として利用してもらわないと水の濁りを取るということは難しい状況です。橋は、地元の町会からも要望が出ており、改修する準備をすすめている。

(市民)

- 赤井町から高堂の方を見ると湾曲になって新幹線の高架が見える。能美市内ではあそこが一番かっこよく見えると思う。その写真を撮った。

5、九谷陶芸村のアクセスについて

(市民)

- 私は、陶芸村で仕事をしている。質問は私の実体験で、毎年2月に東京へ伝統工芸フェアに行っている。石川の工芸品のアピールで、九谷焼のアピールのお手伝いをしている。市長も能美市のアピールをしていらっしゃる。私はそこで一般の方のろくろ体験をしている。事前予約でだいたい20名くらい来られる。その体験された方が一様にみなさん喜ばれて、能美市ではこういう体験ができるのかと聞かれる。陶芸村できて、資料館もあり、問屋で買える。陶芸館もあるので見ることもできるし、買えるし、体験もできると、九谷焼をパッケージで楽しめる場所があると言っている。金沢からどうやって行くのかと聞かれると、返事に困る。マップには、電車で何分とか車で何分とかの簡単なものだけで、お客さんに見せてもわからない。アクセス方法をもっと明確にさせていただくか、アクセスしやすいようにできないかと思っている。公共交通機関を使ってこういう経路でと明確に答えられるものがあつたらいい。
- レンタカーでも迷ったと言われる方がいる。そのあたりも、国や県に働きかけ道路

の整備をできないか。

- 陶芸村の賑わいづくりのために、観光ルートとしていしかわ動物園を使った何かをできないか。動物園と陶芸村が連携した観光ルートを整備し、盛り上げられないか。

(市長)

- 未発表ですが、2020年春にのみバスの新ダイヤを開始する準備をしている。新たな観光ルートを運行予定で、これは能美根上駅発、新博物館、陶芸村、動物園、辰口温泉をぐるっと回るルートです。これを利用して頂ければと思っている。それから、あとはタクシーを利用するしかないだろうが、タクシーも割引運賃を適用できないかタクシー業者と協議をしていく。また、グランキャブというワンボックスカーのタクシーがあり、それを利用して南加賀の観光地を回るというパッケージがある。そこには九谷陶芸村も入っているので、そんなものを紹介していけば、来ていただけるのではないかとと思っている。それから、2023年には北陸新幹線が県内全線開通する。新幹線小松駅から陶芸村にどうやって来てもらうかということが、次の課題になってくる。それは、小松市と一緒にいろんなプログラムをやっている中で、そんな中で考えていきたい。
- いしかわ動物園との旅行商品については、今までもチャレンジしたことがあるが、なかなか実現していない。その背景には、客層が違うのではないかとということで、いしかわ動物園に行かれる方は家族連れが多い。子どもを連れているようなファミリー層が、今の陶芸村に果たして行くのかということで、逆に言えば、陶芸村に来てもらえるように、それぞれの魅力をアップさせる必要がある。陶芸村の魅力をどうやってアップさせていくかということが課題。それから、今のご提案の動物園とのパッケージにつながっていくのだろうと思っている。
- 車で来られる方のためには、市内に約2500の標識やサインがあるが、これが古くなっていたり、見にくくなっていたり、古い情報のままになっているため、この1年かけて全部調査をして、改修計画をつくろうとしている。その中で、陶芸村もアクセスしやすいように、サイン看板を設けていきたい。また、ホームページをリニューアルしたので、アクセスも見やすくしていく。

(市民)

- 古墳公園はのみバス観光ルートにはいつているか。

(市長)

- 古墳は公共交通機関で回るよりも、例えば自転車で回ってもらったり、歩いてもらった方がいいのではないかとこの思いで、そのような仕掛けも考え始めている。

6、新博物館について

(市民)

- 新しい博物館が工事中ですが、館内のつくりはどうなっているのか。また、ギャラリーがあると嬉しいと思っている。

(市長)

- 新博物館のコンセプトは何度でも訪れたいくなるような博物館です。たいがい博物館というのは1回見に行けばいいというようなものが多いのですが、この博物館は、ひと月後や半年後には中の陳列を変えたり、見せ方を変えたりして、何度でも訪れたいくなるような博物館にしたい。そのために手作りの博物館となるよう、多くの人に博物館ファンになってもらって、協力をしてもらい、博物館を作り上げていきたい。それから、新博物館の周りには5つの国指定の古墳があるので、古墳を巡ってもらうための玄関口にもしていきたい。周りには、防災センターもある、警察署もある、さらにもある、和田山史跡公園もあるということで、この周辺一帯を人が集うような場所にしていきたいということで、博物館の建設を進めている。建物は面積が2700㎡。総工費が17億円。建物自体は今年の10月末に完成する予定です。その後に内装工事を始めます。中に物を入れるためには、出来立てのコンクリートや内装からはアルカリや酸性が出てくるので、からし期間というものを設けなければならない。最終的には、このからし期間の後、2020年の秋の完成を目指して、今工事をしている。詳細は学芸員から説明させます。

【新博物館の概要説明】

(市民)

- 入場は有料ですか？

(市長)

- 只今、検討中です。

(市民)

- 金沢21世紀美術館と県立美術館は同じような美術館ですが、入場者数が圧倒的に違うのは何かというと、無料で入れるところに楽しい所が有るか無いかです。県立美術館は無料で入れるところに特別楽しいものが無い、逆に金沢21世紀美術館は無料で入れるところに楽しいものをいろいろ考えてある。これが大きな違いで入場者数が全然違う。この博物館が無料であれば子供たちがいつでも入れる。誰でも入れる、若い人

たちが入れる。全部無料にする必要はないのかもしれないけれど、人にたくさん来てもらえる施設が能美市には今のところないが、学術的に勉強しようというところ以外は無料にされたらいいのではないかという気持ちがある。

(市長)

- 勉強をしてもらうということになると無料にすると有難味が分からないのではないかなというご意見もある。それから子供たちは無料の方がいいのではないか、大人は有料がいいのではないか。50円がいいのか100円がいいのか500円がいいのかと、いろんなご意見があって、今、協議を頂いているところである。今のご意見も参考にさせて頂きながら、最終的に判断したいという思いです。

【市長 閉会あいさつ】

まずは、いろいろな貴重なご提言を頂きまして、ありがとうございました。さすが美術を愛される方々のご提言だったなど、あらためて感服をし、できるだけ具現化をしていきたいという思いもある中で、かなり費用がかかる部分もあるので、そのあたりはご理解を頂きたいと思っている。ありがとうございました。